

「シャインマスカット」の1月下旬加温で新梢を順調に伸長させるシアナミド剤の処理

表1 1月下旬加温栽培「シャインマスカット」におけるシアナミド処理が新梢長に及ぼす影響 (2018年2月19日)

区	新梢長 (cm)	
	1月4日処理	1月16日処理
シアナミド	15.1	12.2
対照	9.1	10.1
有意性 ^z	**	**

^z **は1%水準で有意性があることを示す

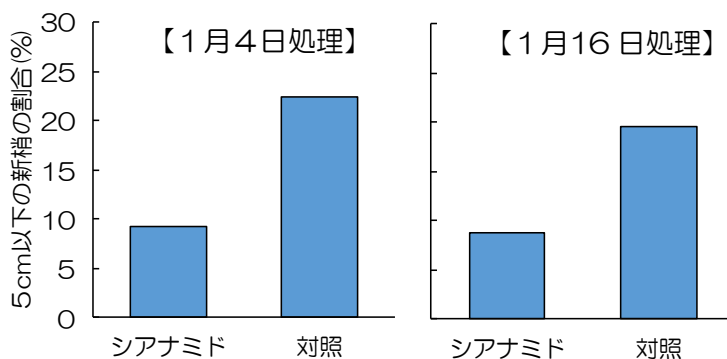


図1 1月下旬加温栽培「シャインマスカット」におけるシアナミド処理が5cm以下の新梢の割合に及ぼす影響 (2018年2月19日)

開発のねらい

「シャインマスカット」の加温栽培では、発芽後に伸長を停止する新梢が目立つことがあります。これらの新梢では、高品質な果房を作りにくいいため、伸長を促すために摘穂を行っていますが、多発すると着房数の不足を招いてしまいます。そこで、発芽前の結果母枝へのシアナミド剤散布処理が新梢伸長に及ぼす影響について検討しました。

新技術の概要

- 発芽約2週間後の新梢長は、1月4日処理区、1月16日処理区ともに、対照区に比べて有意に長くなりました (表1)。
- 発芽約2週間後の新梢長が5cm以下の割合は、シアナミド処理した区で対照区に比べて明らかに低く、伸長が順調でした (図1)。

活用場面

「シャインマスカット」の1月下旬加温において、発芽後の新梢の停止が懸念される場合は、発芽予定2~4週間前にシアナミド1%液を結果母枝に処理します。